

## 第163号

子どもはみんなすばらしい

## なでしこ

燃える心、豊かな心、ふれあう心

学校法人 阪急学園 / 社会福祉法人 阪急福祉会



## インド古典舞踊と私

(真の) 舞踊家 (をを目指す)

藤原 真奈美

インド南部のタミルナードウ州発祥の古典舞踊「バラタナティヤム」は、太古から神への祈りや神話を踊りにあらわしたもので、19世紀後半から舞台芸術として古典の姿を存続し発展してきたものです。私は8年前この踊りのリズムにあわせて動く目、指、ステップの力や表現力の美しい輝きに魅せられて、始めてみました。

と、言ってもそれまではインドには全く興味がなく、便利、きれい、安全なぬるま湯につかって生きてきた私にとって、無縁の国であると思っていました。でも、常に心に刺激を求めつつも怠惰な生活を送っていた時、ふと「私はなぜ生きているのだろうか。」と、祖母の死をきっかけに強く思うようになったのです。生きる目的とは何か、というテーマを知らず知らずのうちに思っていました。この頃に、出会ったのが、インド古典舞踊でした。初め、まわりの人々は、「どうせすぐにあきらめるでしょう。」と思っていたようです。私も期待されないことを幸いと思いい、一気に突進のめり込むことなく、数回の渡印の度にゆっくりと、インドと自分を客観的に見ながら「インドに滞在している時の心境と体調」「インドの好きなどころ嫌いなどころとその思いの変化」等々を、観察、分析し自分を見失うことのないようにしていました。踊りの方では、私が魅せられた人ヤショー

ダ女史から習うことができ、私を受け入れて下さったことをとても感謝しています。彼女は、踊りに対して観光気分だった私をととても辛抱強く指導し長所をのびして、体を動かすことだけでなく踊りの心を少しずつ伝えて下さいました。それは、言葉だけではなく「どうしてわからないの。」といった目をした後ゆっくり目を伏せ、次に開く目は、私の心が素直にキャッチできるように、やさしく、希望と勇気を与えてくれます。何かを教え伝えるとは、こういうことなのだと思います。初めてインドでレッスンを受けた時、一週間で帰らなかった私は少しずつ強く、豊かに、楽しくなり踊りが好きになってきました。好きな事に向き合う時は、自分の欠点を素直に認め、それを克服しようとする努力し、新たな発見と少しの前進に喜びを感じることが出来ます。今は踊りを通して感じたこと実感したことを踊ることで表現していきたくと思っています。でもまだまだわからないことばかりですが一つ一つ私の中で準備ができて時期がきたら体験して乗り越えていくのだろうと楽しみにしています。

インドは全てに純粹でシンプルに真実を与える自然、人々の愛に気づかせてくれました。私はそれらをもらってばかりです。踊りは、自然・愛(神)の力に素直な心で手を合わせ自然体になる目的を教えてくださいました。

(神月栞佳)